

## パンの明治百年史刊行の辞

明治維新と共に進んだ日本の近代化は、僅か一世紀にしてみごとに花を開き、明治百年を迎えた今日日本の国民総生産は、英・仏・独を抜き、米・ソにつぐ世界第三位の経済大国に躍進したのである。

我が国はもはや中進国ではなくて先進国であり、大国から超大国への躍進の途上にあるのである。

近代日本のパンは明治維新を出発点としているが、殆んどゼロに等しい所から出発したパンも、一世紀を経ずして原麦換算百万屯の線をかるく突破し、いまや国民主食としてひたすら成長街道を驀進している。

勿論これは明治維新以来の文明開化風潮に依る欧米文化の吸収と近世にあつては世界大戦後の国民の健康、栄養に対する認識の向上並に生活水準の連続上昇の影響が大ではあるがそれと同時にわがパン業界及び関連業界歴代の苦心努力精進のたまものに相違ないのである。

歴史は大切な基礎である。経験、失敗、苦心、成功の積み重ねが今日を作つたのである。戦前は歴史を大切にしたり、戦後はややもすると歴史をないがしろにする傾向にあるが良き因縁あつてこそ良き結果があるのであり、学問は経験、努力の積み重ねを理論化したものであり、とりも直さず歴史がこれ等を造つたのである。

飽くことなく世の中の進歩は続いて行く、日本のパン業界も進歩して行く、先ず歴史を学び理論を弁え過去に感謝し歴史を尊重する。そして、又深く研鑽努力する処に進歩があるのだと信ずる。

後世のパンの正確な資料は是非共残さねばならないと思う。古い日本と新しい経済成長を遂げた日本との繋りをつくるのは吾々の責任であり次代へのサービスだと考へる。

全日本パン協同組合連合会、日本パン工業会及びパン科学会並びに学識経験者を構成員とする本会が、この明治百年を記念して本書の刊行を企てたのも、この輝かしいパン食文化の成長のあとを記録し、これを後世につたえると共に、後進各位が歴史のあゆみの中から無限の反省資料を見出すであろうことを信じたからである。

関東大震災と第二次世界大戦の際の企業整備および今回の大戦によつて幾多の貴重な資料が失なわれた、そのために内容的には不充分のそしりを免れないが、それでもここまで全国的資料を整備し得たのは、偏えに同業者並に関係業者各位のご協力のたまものである。

ここに改めて衷心から感謝の意を表したい。

又編纂に際しての執筆担当者安達敏氏の非常な御努力並に編纂委員各位の絶大なる御協力に対し満腔の敬意と感謝を捧げる次第である。

終りに本書が広く各方面で活用され、それが食生活文化の向上とパン食の普及に役立つことを祈つてやまない。

昭和四十五年八月

パンの明治百年史刊行会

会長

木村栄一